

## 総合的な学習における「飼育」の指導

西東京市立保谷第二小学校

### ○ 年間教育計画作成について

西東京市立保谷第二小学校では平成15年度より「飼育活動」を4年生の総合の学習に位置づけ指導してきた。

学校は、3年目の今年、飼育指導案を作成したので、次ページに掲載するのでごらんいただきたい。

### 1 保護者への説明と支援

校長と担任は、毎年春の保護者会で目的と方法を示して飼育活動を説明し、休日の世話への支援を求めている。そのため多くの親子が会話を大事にしながらかかわっている。

### 2 飼育活動の効果・子どもの作文から

3月末に4年生の企画で新4年生への飼育の引き継ぎが行われる。ここで4年生は動物の性格や世話のし方を説明し、ふれあい指導と質問に答える。昨年度の質問「動物を踏んだらどうするか？」答「まずけががないかチェックしてください。けがが無ければそのまま大丈夫です。・・・なるべく踏まないようにしてください」「緊急の場合は、すぐに先生に知らせて下さい」。また「ウサギが暴れたらどうするか？」との問いに「夜行性ですから暴れません。でも暴れたらやさしく抱いてあげて、安心させればおとなしくなります」「ウサギのチャメは年とって目が見えないから、静かに優しく世話して下さい」などと4年生は体験を元に頭と心から出た言葉で的確に答えていた(参照P38)。これへの4年生の感想文を紹介する。情をともなう冷静な動物との関わりから、友達を見つめ、そのことで自分を見つめるなど、愛情を感じて潔癖症を克服するなど、飼育活動が十分に情感を養っていることが現れている。

作文「大切な命のバトンをわたそう！」

「4年生は、自分の係の場所へ行ってください。」先生の合図で、みんな動き出した。私はラバの担当だった。ラバは人気があって、たくさんの3年生が並んだ。その3年生の顔を見ると、ワクワクした顔や、少し緊張して固くなった顔もあった。だけど、ラバを抱くとみんなにこにこ顔！ラバを抱いた後に感想を聞くと、「温かかった。」「毛がフサフサして、気持ちよかった。」などです。なかには横で見ているだけの子もいたので、「なでてみたら？」と声をかけた。少し遠慮

気味にやさしくラバをなでた3年生を見ると、去年の私を思い出した。

私も3年生の頃は、ウサギが少しこわかった。でも、いまではだっこだってできる。

私は飼育を通して、私のいろんなところが変わったと思う。まず、飼育小屋のにおいだ。最初の一ヶ月は、もう臭くてたまらなかった。しかし、今では慣れたというか、飼育小屋の中も外もたいして変わらないように思えてきたのです。

それに獣医師の先生が、私たちによく言う「チャボやウサギはしゃべれないから、よくみてあげてね。」私はそれを実行してみたのです。するとどうでしょう、本当に気持ちが何となく分かってきたのです。3年生もぜひ実行してみてください。そして、ウサギやチャボの苦手な子たちも、私みたいに飼育を通して、慣れて欲しいです。また、命のバトンを大切に、また来年も、命のバトンをしっかりと今の2年生にわたしてほしいです。

### 3 有効な教育活動になるための留意点

飼育活動の困難点は、動物の傷病、人への衛生不安、手間の大変さ、休日の世話、アレルギー不安であるが、これらに対して学校の知識だけでは十分な対応はできない。

これに対し、西東京市では地域の獣医師の支援を受けられるようにしている。そのため鳥インフルエンザ問題に対しても教育的な立場からの対応ができてきた。

また、子どもと共に、弱い存在を庇うため、「親爺の会」が冬の飼育箱づくりや、休日の世話など支援活動を始め、それがきっかけで「どんど焼」「防災活動」「池の清掃」など、その後の様々な学校支援活動につながっている。

なにより、平成15年度から飼育を教育課程に位置づけたため飼育学年の保護者の協力と教職員の理解が容易に得られたことが大きい。

子どもを育てる有効な動物飼育体験が実現している。



○ 指導案 (例)

1 単元名 飼育を通して (第4学年)

2 単元の目標

- ・動物の飼育体験を継続して実施することにより、生命尊重の心を育てる、
- ・動物に対する興味関心を高め、飼育の過程で生じるさまざまな課題に創造的に取り組める資質を育てる。

3 評価規準

学習活動への 関心・意欲・態度	総合的な思考・判断	学習活動に関わる 表現	知識を応用し 総合する能力
○動物の飼育に興味を持ち、自分から進んで世話をしようとする。 ○思いやりのある態度で動物に接したり交流しようとする。 ○友達や3年生に飼育の仕方や様子を伝えようとする。	○毎日の世話は苦勞も多いが、その地道な活動が命をつないでいることを考えることができる。 ○生き物と人間の関係について調べたことを基に、相互のかかわりについて考えることができる。	○体験したことをさまざまな方法で、ほかの人に伝えるためまとめることができる。 ○引継ぎ集会の計画・実行にあたり自分なりに伝え方を工夫することができる。	○動物の世話の仕方には、それぞれ理由があり、そのときの状態に応じた接し方に気づくことができる。 ○生き物の特徴や、人との違いに気づくことができる。

4 年間指導計画 (35時間扱い) ○の中は、時数

- ・4月・・・初めての飼育活動開始、仕事の手順、当番のローテーション、休日飼育等の確認、④保護者会での説明、(生命尊重、使命感、心の成長、親子飼育ボランティアの説明)
- ・5月・・・次の学級への引継ぎ集会、②飼育入門オリエンテーション(獣医との連携)②
- ・6月・・・飼育新聞作りー1、ニュース仕立てにした発表会④
- ・7月・・・夏の間の飼育方法の確認、当番の分担、夏の飼育活動②
- ・9月・・・「動物教室でさらに関心を高めよう」(獣医との関連)②
- ・10月・・・飼育新聞作りー2④
- ・11月・・・動物の気持ちを感じて学芸会に取り組もう④
- ・12月・・・冬の間の飼育方法の確認、当番の分担、冬の飼育活動②
- ・1月・・・引継ぎ集会の持ち方、プログラム、資料作り④
- ・2月・・・3年生への引継ぎ集会②
- ・3月・・・3年生飼育見習い期間、(3年生と共に飼育をする期間)③



\*休日も含めて毎日の常時活動を当番制で実施する

5 他教科との関連

- ・国語・・・体験したことから文章は溢れるように出る、飼育新聞作り二回を通して表現させる、また、作文教材と関連させた指導が効果的である、学習発表会「ぞう列車よ走れ」等の台本作り、演技の取り組みでは、飼育体験の感想をセリフにしたり、飼育動物と登場する動物との違いや共通点を考えながら演技を考える指導
- ・理科・・・季節による動植物の変化の単元の、生命の連続性と関連させる指導、また獣医師の支援を得て子どものもつ疑問を掘り下げ、新たな疑問・事象のつながりに興味を持てる指導、
- ・算数・・・動物の体重の変化、飲水量計測、1分間の心拍数計算など体験を通して、算数が実生活に関連していることを理解する指導
- ・体育(保健)・・・「育ちゆくわたし」の単元で体の成長や、第二性徴と関連させる指導、
- ・図工・・・愛情をもってかかわっている動物に対して、興味を持って観察するため大きな表現力を発揮することが見られる
- ・道徳・・・弱いものを支配しようとする潜在的な心情や独占欲に気づき、初めて相手の立場を思いやる心が育つ、「〇〇してあげる」から「〇〇してほしいのかな」という同等の立場まで深まっていくことで対等の関係ができる、ここまで意識が高まる「飼育」は、道徳的価値の高い体験活動といえる